

第 36 回耐震基準小委員会 議事録

日時：平成 17 年 11 月 16 日（水）14:00～17:00

場所：写真会館 3F 会議室（添付資料参照）

出席者 14 名

配布資料

資料 36-0 第 36 回耐震基準小委員会議事次第

資料 36-1 委員名簿

資料 36-2-1 第 5 回 ISO23469 適合設計資料集 WG 委員会（土木学会 地震工学委員会 耐震基準小委員会設計事例集 WG）（第 30 回土木耐震国際規格開発委員会） 議事（案）

資料 36-2-2 TC98 Draft, Program of the meetings, Rev.4

資料 36-2-3 ISO/TC98/SC3/N257

資料 36-2-4 ISO/TC98/SC3/WG10/N89

資料 36-2-5 ISO/TC98/SC3/WG10/N90

資料 36-2-6 ISO/TC98/SC3/WG10/N91

資料 36-3 性能設計化における地震時使用性照査としての経済性照査法

議事内容

1．話題提供：菅野委員

” 港湾の施設の技術上の基準の改訂について ”

来年度の改訂に向けて予定，現状での港湾構造物に対する耐震性評価方法の説明があった．

2．委員自己紹介

3．委員長挨拶

性能設計の推進に向けて，下記の 4 つの WG を中心に活動する旨，説明があった．

耐震設計法ガイドライン出版化 WG

設計事例集 WG

経済性照査 WG

認証機関 WG

4．ワーキング報告

耐震設計法ガイドライン WG（当麻委員）

- ・土木構造物の耐震性評価指針で 2 次原稿はほぼ完成．現在，最終見直し中で年度内の出版を目指す．
- ・内容は 5 章構成．

第 1 章 概説

第 2 章 基本方針

第 3 章 地震動

第 4 章 地盤の評価

第5章 構造物の解析

- ・ホームページで閲覧可能とする。——>掲載時には委員に連絡する。

- ・各論編は、今後、執筆メンバーの編成も含めて作成作業に入る。
各論編各6冊（橋梁，免震，盛土，地下構造物，タンク，港湾）

設計事例集 WG（森委員）資料 36-2-1~6

- ・ISO23469 土構造物，基礎等を対象にした基準が11月11日に出版された。——>基準に見合った設計資料集の作成。
- ・日本語で我々がほしい事例集を作成。——>ISO23469 適合設計資料集に一部転用。
- ・委員等で設計事例を提供可能なものは提供してほしい。<——海外での業務でメリットが大きいと考えられる。
- ・設計事例は現実問題として，公共構造物の場合には情報公開法により請求されれば，公開しなければならない。

経済性照査 WG（澤田委員長）資料 36-2-3

- ・レベル1で照査すべきものとして経済的に最適な設計を目指す。——>ライフサイクルコスト最小化。
- ・実際の設計事例を実施するため，入力，損傷，コストグループに分かれて作業中。
 - 地震動 Gr：多くの確率付地震動を作成。
 - 損傷 Gr：地震動と同様に，材料のばらつきを考慮した検討。
 - コスト Gr：計画と耐震分野での用語の統一的解釈。事例検討。
- ・今年の課題
 - 地震動 Gr：推本等で提示された地震動との関係を整理。
 - 損傷 Gr：安くてじん性のある構造物を新しい構造として検討対象に加える。
 - コスト Gr：道路ネットワーク全体としてのユーザーコストの算定。
- ・将来的に計画と設計の融合を目指す。

～ の各WGで委員を募集。応募者は主査に連絡。

5. 今後の計画・方針

認証機関 WG の立ち上げ：当麻主査

- ・土木学会土木技術推進機構の中で既に実施中。——>事例を委員会で紹介したい。
- ・機構の動きを見ながら重なるようであれば，機構側に参加する方向で検討。
- ・WGでは，設計認証機関はどの段階から立ち入るのか，認証機関の責任，認証機関はどうあるべきか，など課題等を抽出，はじめはバーチャルな事例をもとに検討してみる。
- ・耐震設計に関して認証を依頼してほしい。
- ・評価事例は公開したい。
- ・趣意書の作成と委員の募集。（活動は月1回程度）

委員からの意見，情報。

- ・実際に認証する際には，周辺の影響度を考慮して構造物ごとに認証メンバーを選出すべき。（有賀委

員)

・ ” 構造工学委員会においても「性能設計推進のための審査体制検討小委員会」が 2005 年より立ち上がっている ”(北原委員)

6 . その他

- ・ 委員会は年に 2 回程度開催 .
- ・ 次回 , 年度末を予定 .
- ・ オブザーバー参加可 .